ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

市民局地域防犯支援課

2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

「防犯灯」とは

住宅地における夜間の**地域住民**の
歩行の安全の確保と、**犯罪の防止**
を図るため、
公衆の用に供する**道路**を照明する場所に
横浜市が設置、所有及び維持管理する照明灯

その他、屋外照明には、道路照明灯、商店街灯、公園灯等がある

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

電柱共架型　16万灯
（灯具のみ管理）

独立柱（鋼管ポール）型　２万灯
（鋼管ポールごと管理）

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

電柱共架タイプ	鋼管ポールタイプ
灯具の横に黄色のプレートが付いています。 	ポール本体に黄色のプレート又は銀色のシールが付いています。
 	プレートタイプ シールタイプ

※　日常の見守り（故障の発見・連絡、繁茂した草木の除去等）は、自治会町内会の皆様にお願いしています

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

経緯

灯具の設置（＝更新時期）の偏り

～H20(2008)	自治会町内会が管理	
H21(2009)～	本市がＬＥＤ防犯灯を設置し、維持管理	1.1万灯をLED化（初期導入分は耐用年数10年）
H26(2014)	電柱共架タイプ ＥＳＣＯ事業	11.6万灯をLED化 （サービス期間10年）
H28(2016)	鋼管ポールタイプ ＥＳＣＯ事業	1.9万灯をLED化 （サービス期間10年）
R6(2024) R8(2026)	各ＥＳＣＯ事業終了	

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

課題

光源寿命を経過した灯具の更新

防犯灯不点灯

経年劣化した鋼管ポールの建替え

地域の声に応える体制

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

事業概要（想定）	
場　　所	市内一円
規　　模	18万灯
手　　法	PPP手法の導入も含めて検討中
実施内容	包括的維持管理 （器具更新、通報受付、現場調査、不具合修理、新設・撤去、各種連絡調整等）

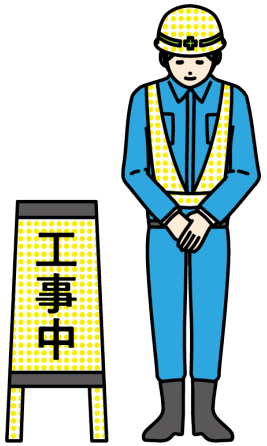
ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

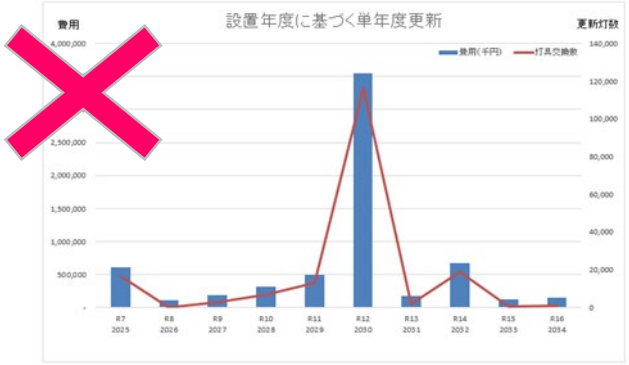
明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

民間事業者様に期待すること

◆民間のノウハウを活用した
市民サービスの向上

◆更新費用の平準化を含めた
財政負担軽減の提案





スケジュール（想定）

◆R5(2023)年度以降　　事業者ヒアリング 等

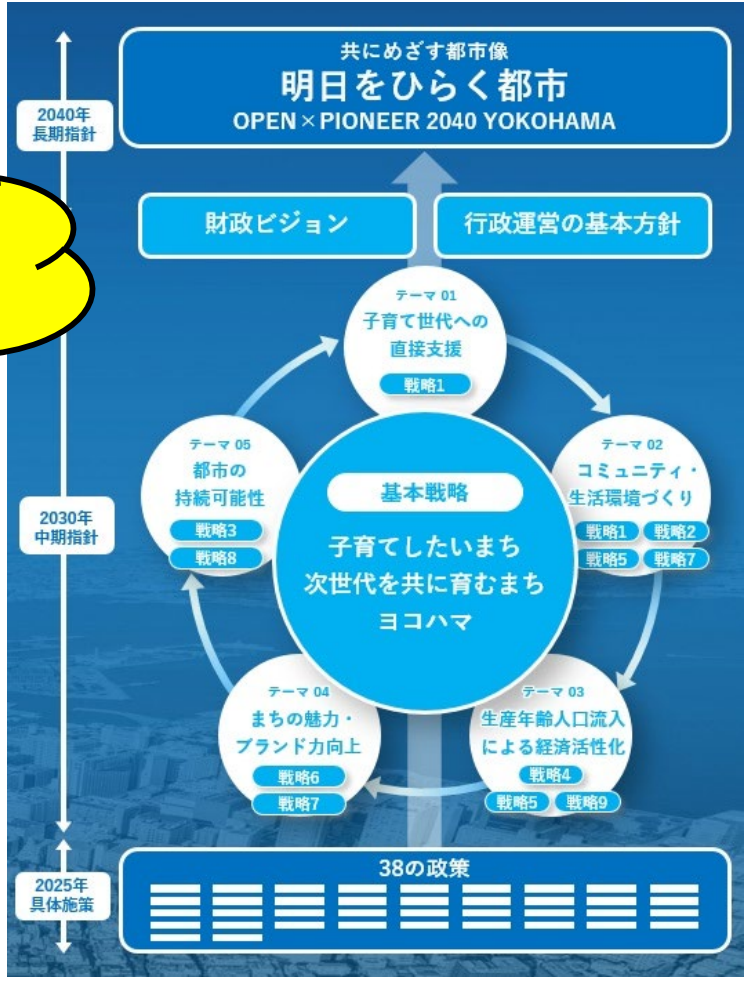
◆R9(2027)年度　　事業開始

※独立柱（鋼管ポール）タイプのESCO事業が終了する、Ｒ９(2027)年度からの開始を想定しています

ＬＥＤ防犯灯の包括的維持管理

重要なインフラのひとつ！

「横浜市中期計画2022～2025」



明日をひらく都市
OPEN×PIONEER

民間事業者のみなさまの
ご提案をお待ちしています！

担当：市民局地域防犯支援課（市庁舎12階）
電話：045-671-3709
メール：sh-chiikibohan@city.yokohama.jp

西柴地域ケアプラザ整備用地の跡地利用について

横浜市健康福祉局地域支援課

2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

1.用地概要

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

◆所在地：

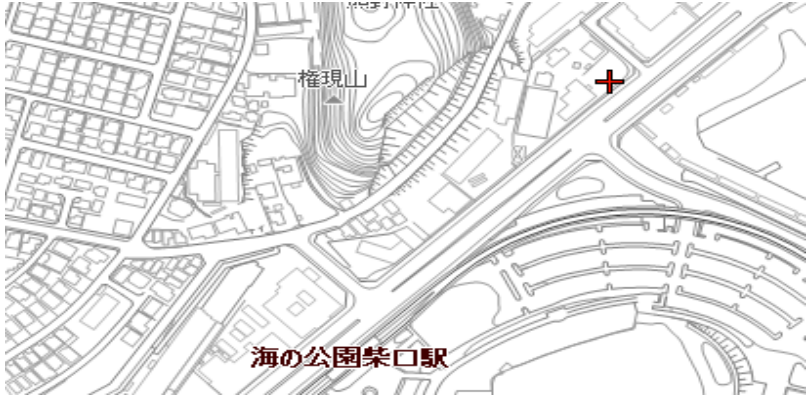
金沢区柴町343-5

※最寄り駅　金沢シーサイドライン「海の公園柴口」から徒歩３分

◆約1000㎡（約20m×50m）

◆準住居地域

建蔽率60%　容積率200%



２．周辺環境

◆隣地合築施設
　２～５Ｆ
　シーサイド金沢（特別養護老人ホーム）
　※カフェ、フィットネスも営業

　１Ｆ
　西柴地域ケアプラザ・コミュニティハウス
　（市の福祉施設と市民利用施設の合築）

◆海の公園と近接

◆民間マンションと隣接

横浜市風力発電所（ハマウィング）のリプレース検討

横浜市環境創造局環境エネルギー課

2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

横浜市風力発電所　ハマウィングのご紹介

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

横浜市風力発電所　ハマウィングのご紹介

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

●所在地
　横浜市神奈川区
　　鈴繁町（瑞穂ふ頭内）

●2007年の稼働開始から
　今年で17年目を迎えます。

●再エネや脱温暖化の
　普及啓発を目的に市が運営
　しています。

※都市型立地の風力発電所で、みなとみらい地区からよく見えます。瑞穂ふ頭内は関係者以外立ち入り禁止。

YOKOHAMA WIND ENERGY

横浜市風力発電所　ハマウィングのご紹介

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

●年間発電量
約210万ｋＷｈ
●建設費
約５億円（補助金、市債）
●運営費（主な収入）
FIT売電、協賛金収入
2022年実績（約5千5百万円）
●普及啓発
2022年実績（1,415名来訪）
見学会（2回）、団体見学（随時）

※団体見学のご希望については、風車担当までお問い合わせ下さい。

横浜市風力発電所　ハマウィングのご紹介

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

ハマウィングサポーター　事業者からの協賛

プリンス電機株式会社
CHIYODA CORPORATION
FANCL 正直品質。
NHKニッパツ 日本発条株式会社
横濱倉庫株式會社
JGC 日揮株式会社
株式会社 日新 NISSIN CORPORATION
KUDO
大京建機株式会社 DAIKYO KENKI Co.,Ltd.
ENEOS
人を、想う力。街を、想う力。 三菱地所
CTC Challenging Tomorrow's Changes
SEAP
東光電気工事株式会社 TOKO ELECTRICAL CONSTRUCTION CO., LTD.
川本工業
日本油化工業株式会社 NIPPON YUKA KOGYO CO., LTD.
ARBITO

横浜農業協同組合　（株）神奈川保健事業社　キリンホールディングス（株）　（株）共信設備設計
協同組合横浜市設備設計　（株）テクノジャパン　（株）神奈川産業

※2023は、プライムクラス17者、スタンダードクラス７者がハマウィングサポーターとなっています。

YOKOHAMA WIND ENERGY

横浜市風力発電所　事業者様との協働について

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

将来のリプレースのため、
１月に「対話によるサウンディング型市場調査」を実施

●現在適用しているFITの認定期限2027年８月までは、現行機運用
●その後も横浜市の環境・再エネのシンボル「ハマウィング」を継続
●再エネ電気の地産地消（横浜市内での売電、自家消費）
●民間事業者との協働による事業継続の可能性を模索中

現在の敷地で、民設民営によるリプレースを目指しています。

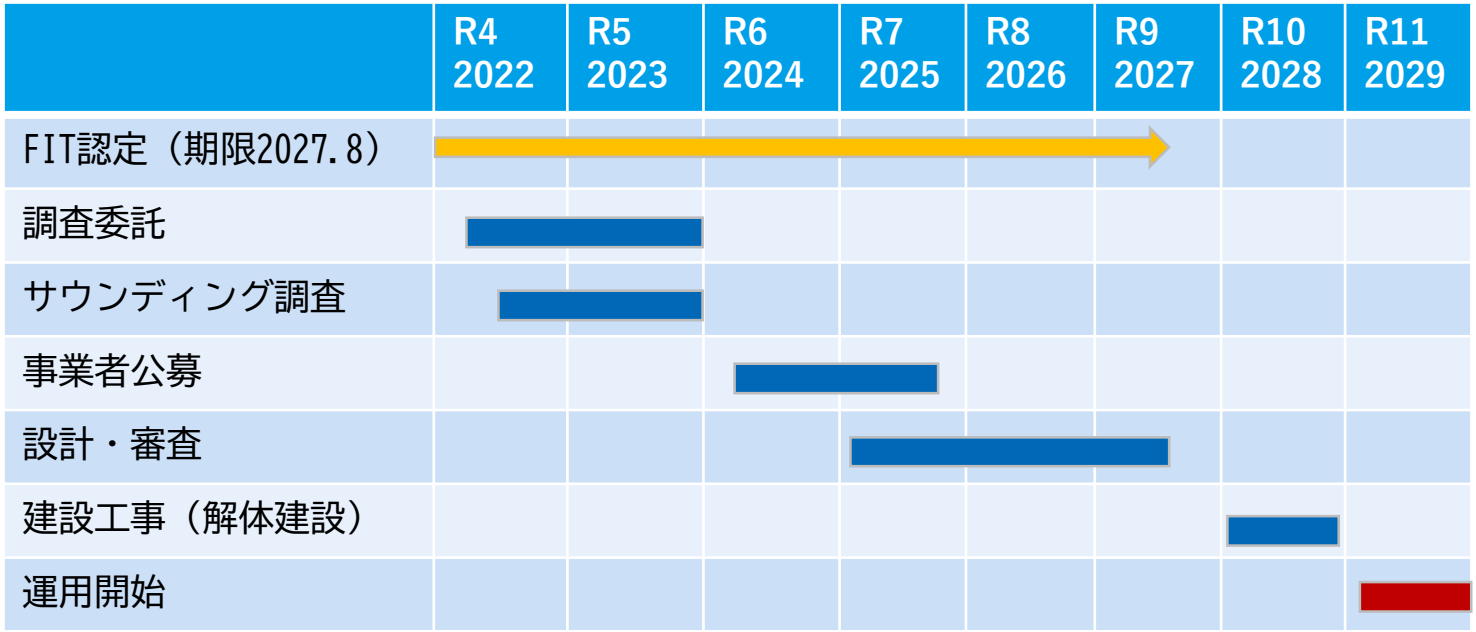
１月のサウンディング型市場調査の結果はＨＰに公表中です。

YOKOHAMA WIND ENERGY

横浜市風力発電所　事業者様との協働について

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

将来のリプレースまでの想定スケジュール



ＦＩＴ認定終了後、運用開始（2029年頃）を目指します。

YOKOHAMA WIND ENERGY

ＰＰＰ実現への主な課題

- 大型化など効率的な風車や送電設備の仕様検討
- 専用タワークレーンや運搬車を活用し施工の省スペース化
- 市内の売電先（自家消費先）の確保
- 売電以外の付加価値を創造し、採算性確保
- 最新技術の導入によるコスト削減の取組
- 既存風車撤去後の主にブレード利活用の検討

※現在、民間事業者が参画しやすい条件を整理している段階です。

事業者の皆様のご意見、ご協力をお待ちしています！

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

将来のリプレースによるフォトモンタージュ

YOKOHAMA WIND ENERGY

雨水調整池の利活用について

（道路局河川企画課）

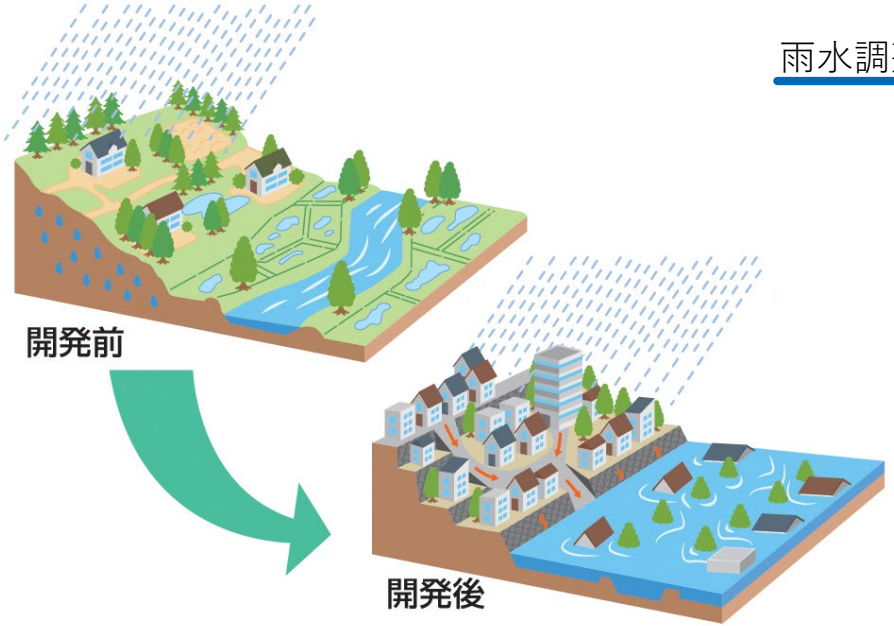
YOKOHAMA PPP PLATFORM

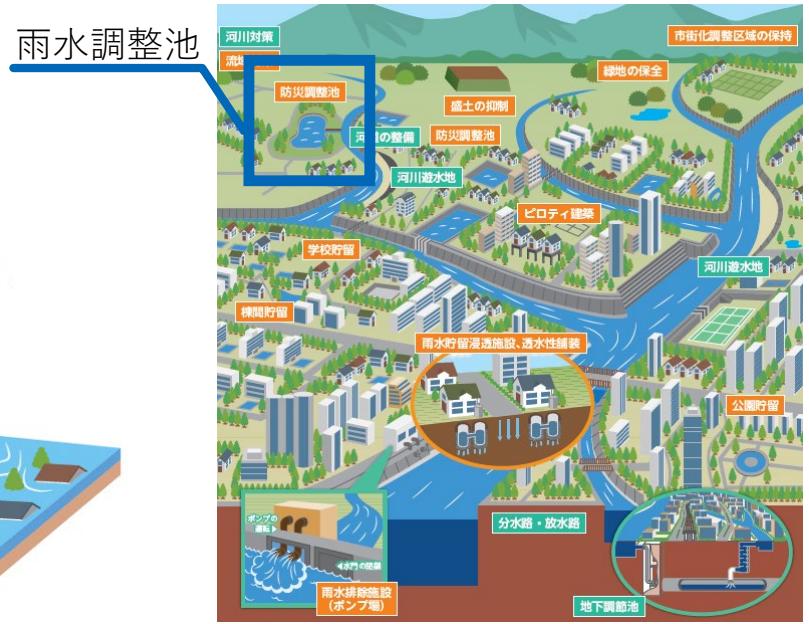
2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

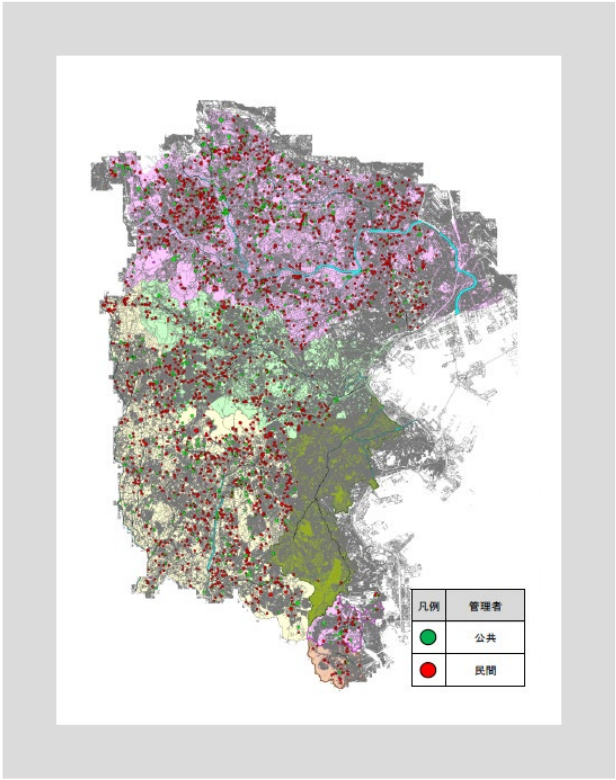
1　雨水調整池の概要

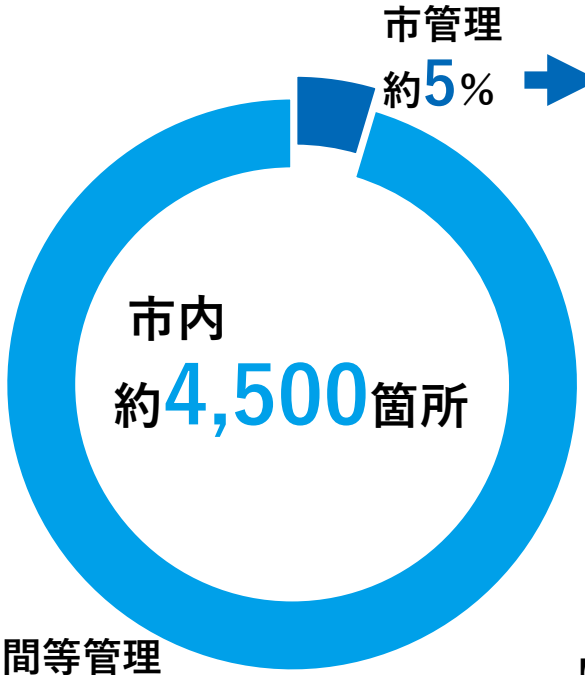
- 昭和40年代以降の急速な市街化が進む一方で、保水機能が低下し、河川への流出量が増大したため、河川の氾濫被害が増加しました。
- そのため、現在も治水対策（河川改修・貯留施設等）継続的に実施しています。





1　雨水調整池の概要





【雨水調整池貯留量】
・市内全体：399万㎥
・市管理　：183万㎥

1　雨水調整池の概要

・雨水調整池は、降雨時に集中的に降った雨水を一時的に貯めて、
河川水量の急増を防ぎ、洪水被害を軽減させる施設となります。

泉田向雨水調整池（青葉区）

1　雨水調整池の概要

- 財源不足等により、所有施設が一定の管理水準を満たしていないことが課題。
- 今後も雨量の増加が想定されるため、洪水時に機能するよう適切な維持管理を行う必要があります。

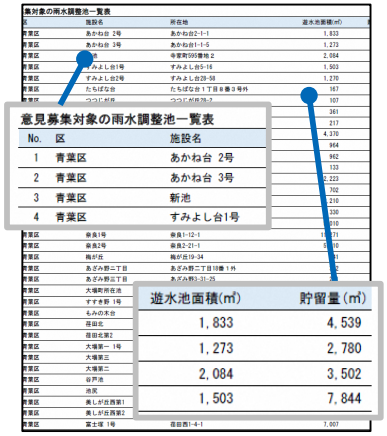
2　雨水調整池有効活用の概要

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

- 河川部が所有する雨水調整池において、活用検討可能な175施設を選定。
- 上記施設での有効活用に関する幅広い意見募集を実施中。

1 本市ホームページ

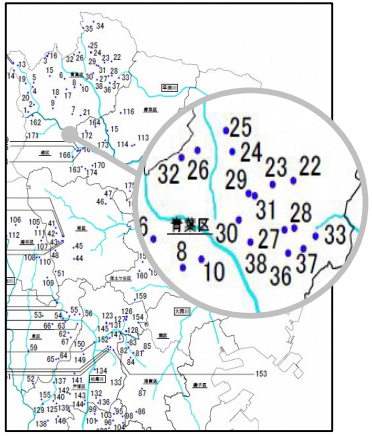
一覧表



意見募集対象の雨水調整池一覧表

No.	区	施設名	遊水池面積(㎡)	貯留量(㎥)
1	青葉区	あかね台 2号	1,833	4,539
2	青葉区	あかね台 3号	1,273	2,780
3	青葉区	新池	2,084	3,502
4	青葉区	すみよし台1号	1,503	7,844

位置図



雨水調整池有効活用に関する意見募集：令和２年９月開始～現在継続中

2 テーマ型共創フロント

3 共創メールニュース

公民連携に関する公募の情報や
フォーラムなどの情報等

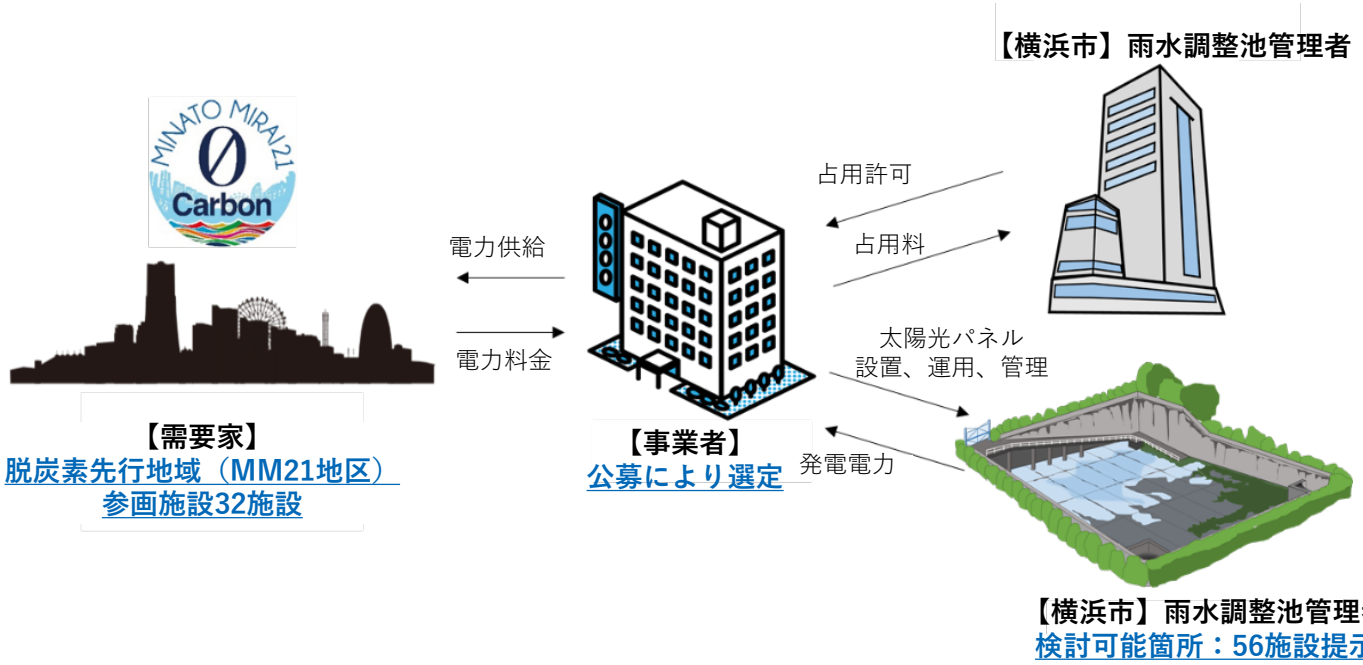
4 ＰＰＰプラットフォーム（Yopp）

R4.11：セミナーブース出展
R5.6　：セミナー発表

３［事例紹介１］オフサイトＰＰＡ事業（再エネ導入）

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

- 本市所有の雨水調整池に事業者が太陽光発電設備を設置、運用・管理。
- 発電電力を脱炭素先行地域（MM21地区）へ供給する公募を開始。【参加申込締切済】

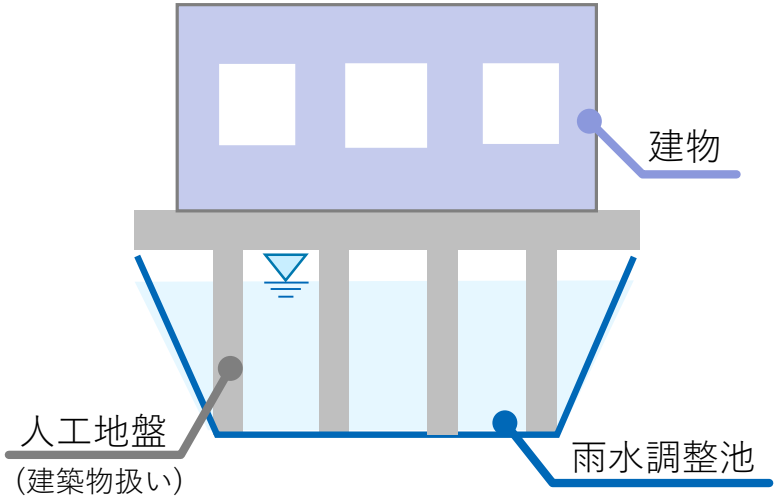


4［事例紹介２］上部貸付事業（建物）

・雨水調整池の機能確保を前提として上部を貸付。

・想定施設：物販店舗等（過去実績）
・貸付方法：二段階一般競争入札（1次：提案書審査、2次：価格競争入札）
・契約方法：事業用定期借地権設定契約
・貸付料　：不動産鑑定評価により算定

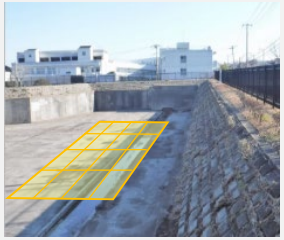
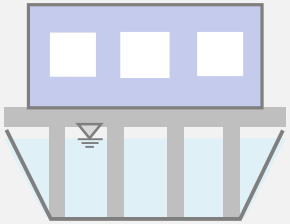
野庭団地第一雨水調整池（港南区）



5　今後の活用

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

・今後、民間事業者の皆様と協働して、既存事業の促進や新たな取組の検討等、雨水調整池のさらなる有効活用の拡大を図りたいと考えています。

1　再エネ導入	2　上部貸付（建物）	3　シェアサイクル	4　新たな取組
		 雨水調整池周辺の余剰地活用	

期待する項目	主な効果
財源確保	河川部所有施設の適切な維持管理の確保、維持管理費の縮減
地域活性化	新たなサービスの提供、子育て世代の呼び込み、幅広い世代の交流
脱炭素化促進	市内での生産された再エネの地産地消

OPEN YOKOHAMA

旧青山水源事務所

- 横浜市水道局浄水課事業管理係

YOKOHAMA PPP PLATFORM

- 2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

青山水源事務所旧館の活用に関するサウンディングについて

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

1 青山水源事務所旧館の概要

所在地	相模原市緑区青山3482番地
敷地面積	約2300㎡（建物床面積含む）
建築年	和館：明治30年（1897年） 洋館：昭和７年（1932年）
建築様式	木造　平屋建て

・明治30年築造の和館と、昭和７年築造の洋館からなる和洋折衷様式の建物です。
・昭和47年まで事務所として使用し、その後は施設見学者の休憩場所等として使用していました。
・その景観から、映画撮影のロケ地に選ばれたことがあります。
・令和元年の耐震調査で耐震性がないことが判明し、現在は使用していません。

和館

洋館

2 サウンディング実施検討の経緯

令和３年度に、局内で青山旧館の活用について検討しましたが、耐震工事等に相当な費用を要することから、水道事業の課題や置かれている状況等を踏まえて、現状のまま維持管理し、施設に支障が出たら解体するのが妥当であると整理しました。

一方で、建物等保有資産の有効活用を推進する観点から、活用の可能性についてサウンディング調査を行います。

横浜市が現時点で想定する利活用イメージ

- 古民家の雰囲気を活かした飲食の提供（カフェ・レストラン）
- アーティストの創作活動や芸術・文化交流のためのスペースの提供
- 古民家でくつろぎながら仕事をするワーケーションのためのサービスの提供
- 当時の飲食や生活をVR等で体験できる訪日外国人旅行者も見据えたサービスの提供
- フィルムコミッション等へ貸出し撮影場所の提供
- 横浜市民だけでなく、相模原市民にも広く利活用の場を提供

青山水源事務所旧館の活用に関するサウンディングについて

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

3 活用に際しての条件

・敷地境に高さ２ｍ以上のフェンスを設置する。
・駐車場はないが、駐車スペースあり。
・必要な耐震工事や修繕工事は、事業者が実施する。
・住宅地区と隣接のため、住民に対して配慮する。
・歴史的建造物としての価値を尊重して活用する。
・和館と洋館以外は撤去可能。

4 今後のスケジュール

7月 現地見学会
・実施要領の公表、配布
・対話参加企業等の公募
・現地見学会

8月 対話実施
・個別対話実施
・追加対話（必要に応じて）

9月 結果公表
・対話結果概要作成

10月 事業検討
・参加企業等への確認

サウンディング調査の実施に先立ち、現地見学会を実施します。（7月28日(金）13:00～16:00）

青山水源事務所旧館案内図

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

所　在　地	相模原市緑区青山3482番地

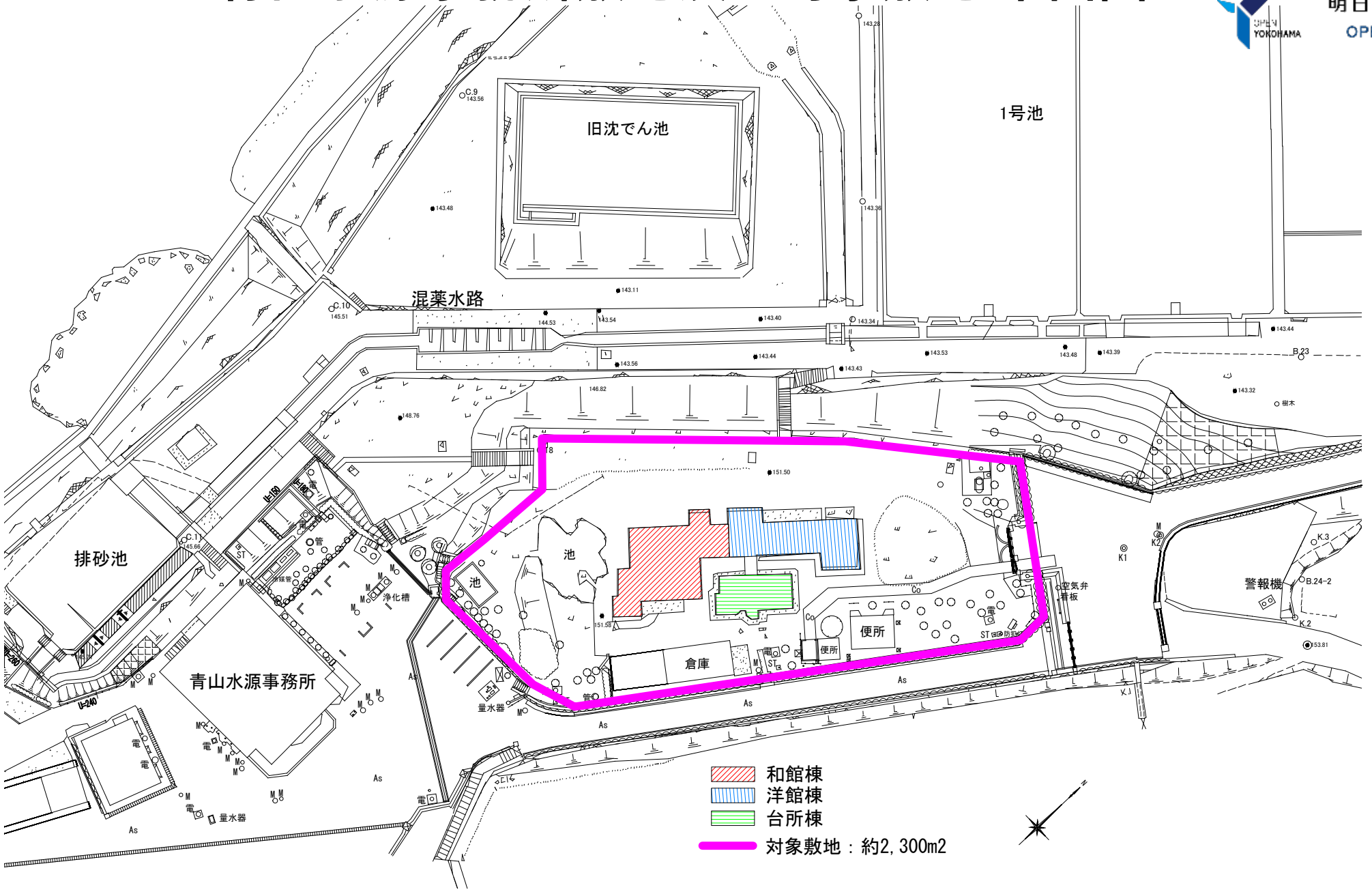
アクセス方法

・JR橋本駅から三ケ木行　三ケ木バスターミナルより徒歩30分

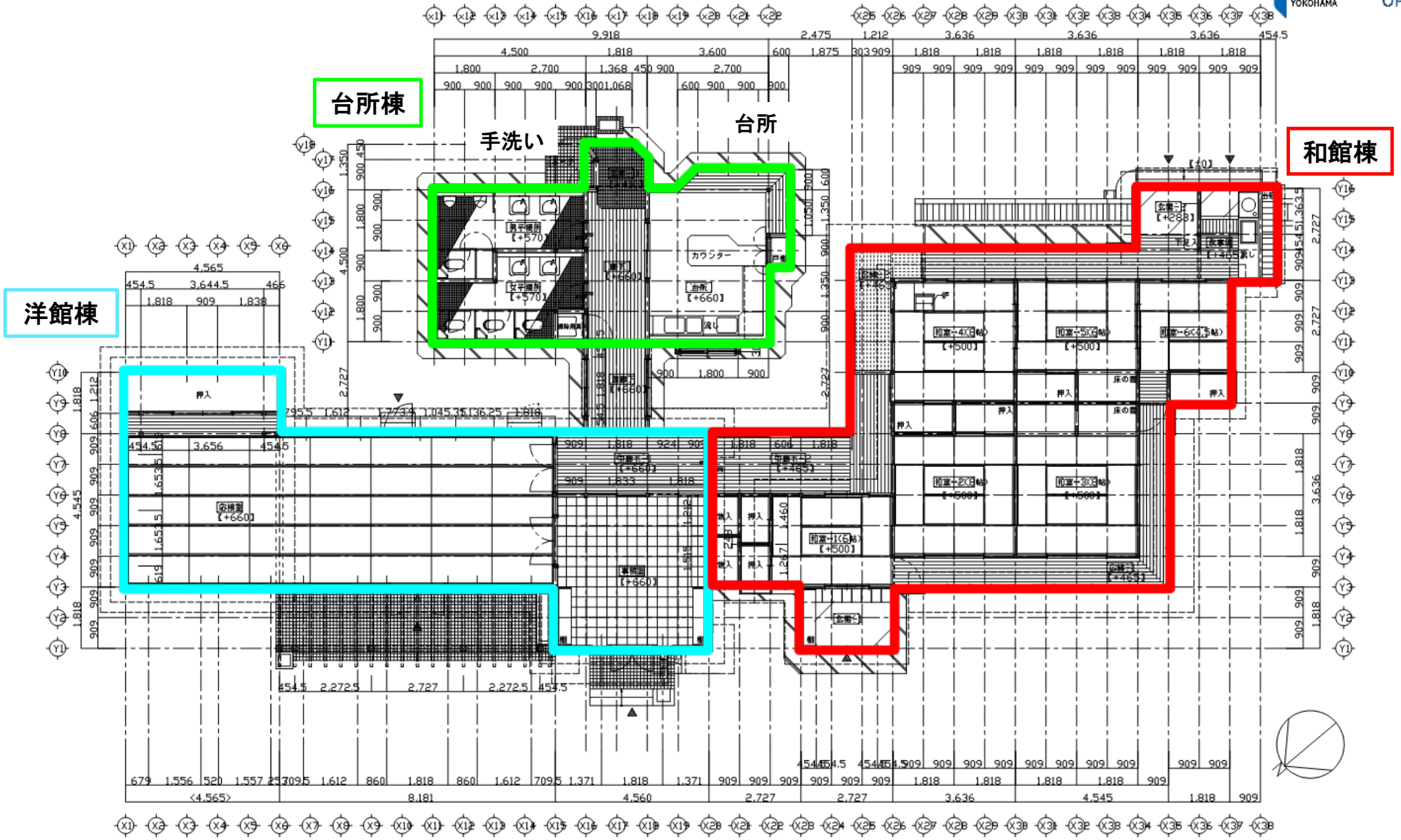
・JR橋本駅から新小倉橋経由三ケ木行　青山バス停留所から徒歩10分

拡大図

青山水源事務所敷地及び対象敷地 平面図



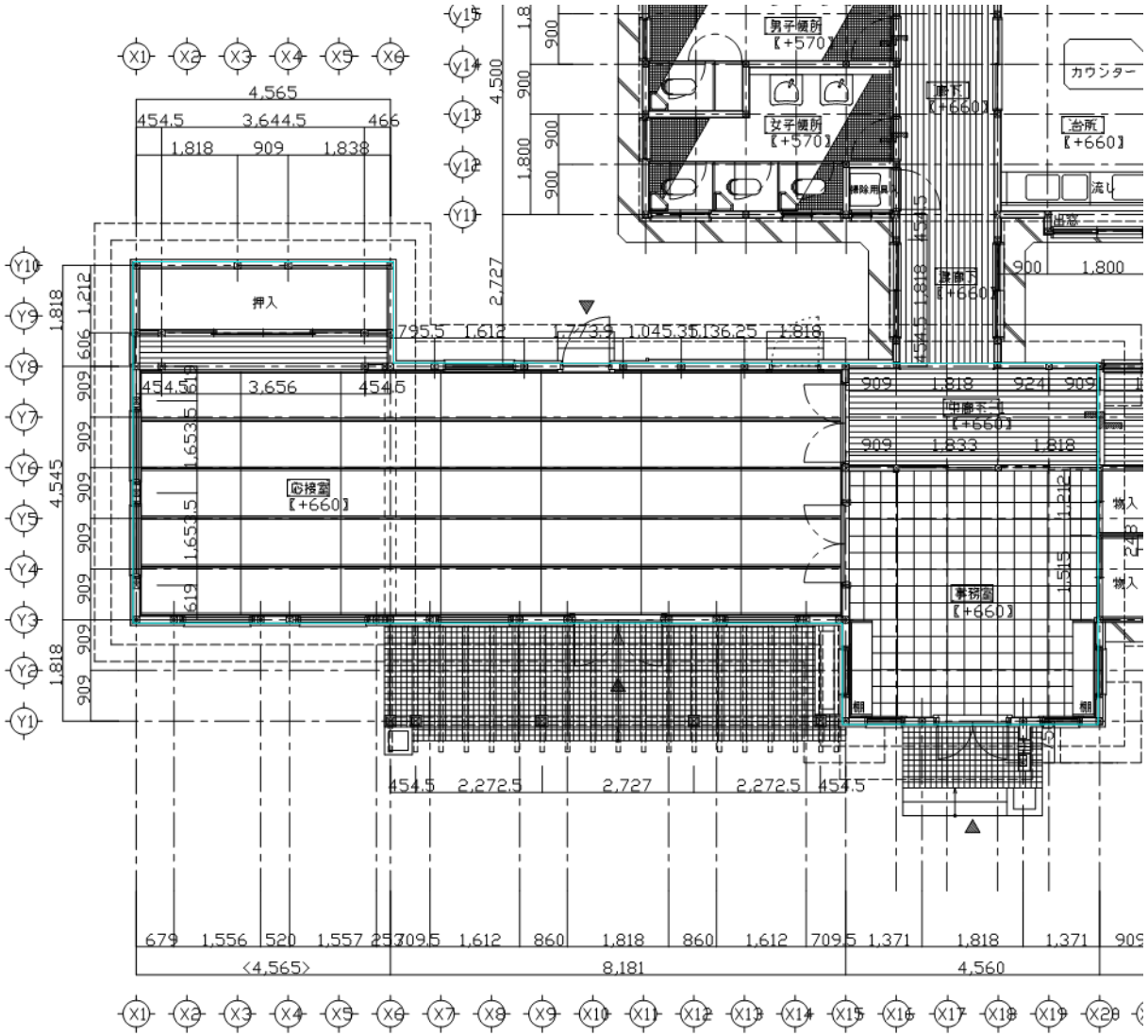
青山水源事務所旧館全体平面図



青山水源事務所旧館（洋館棟）詳細

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

①平面図



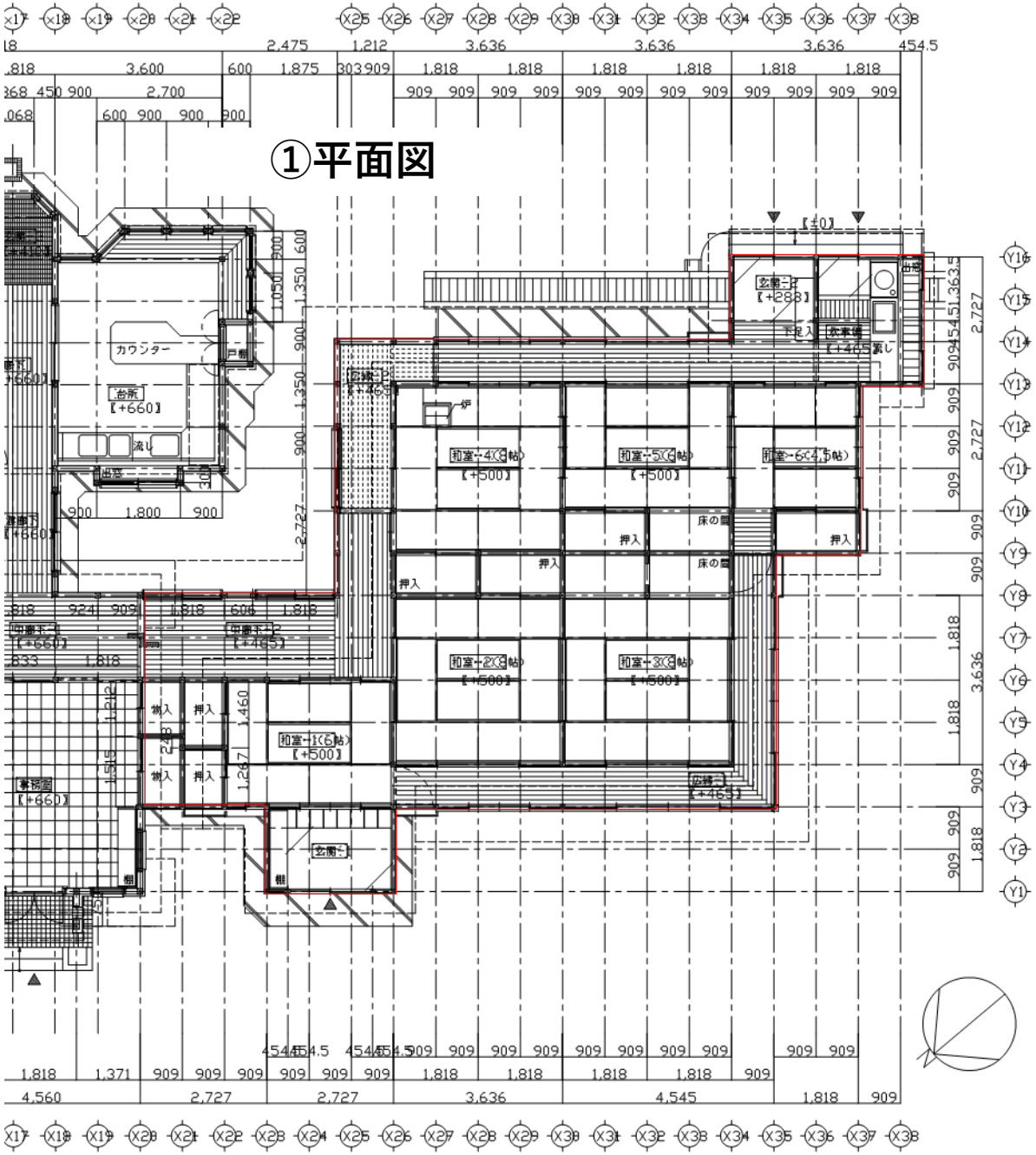
②外観写真

③廊下部分

青山水源事務所旧館（和館棟）詳細

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

①平面図



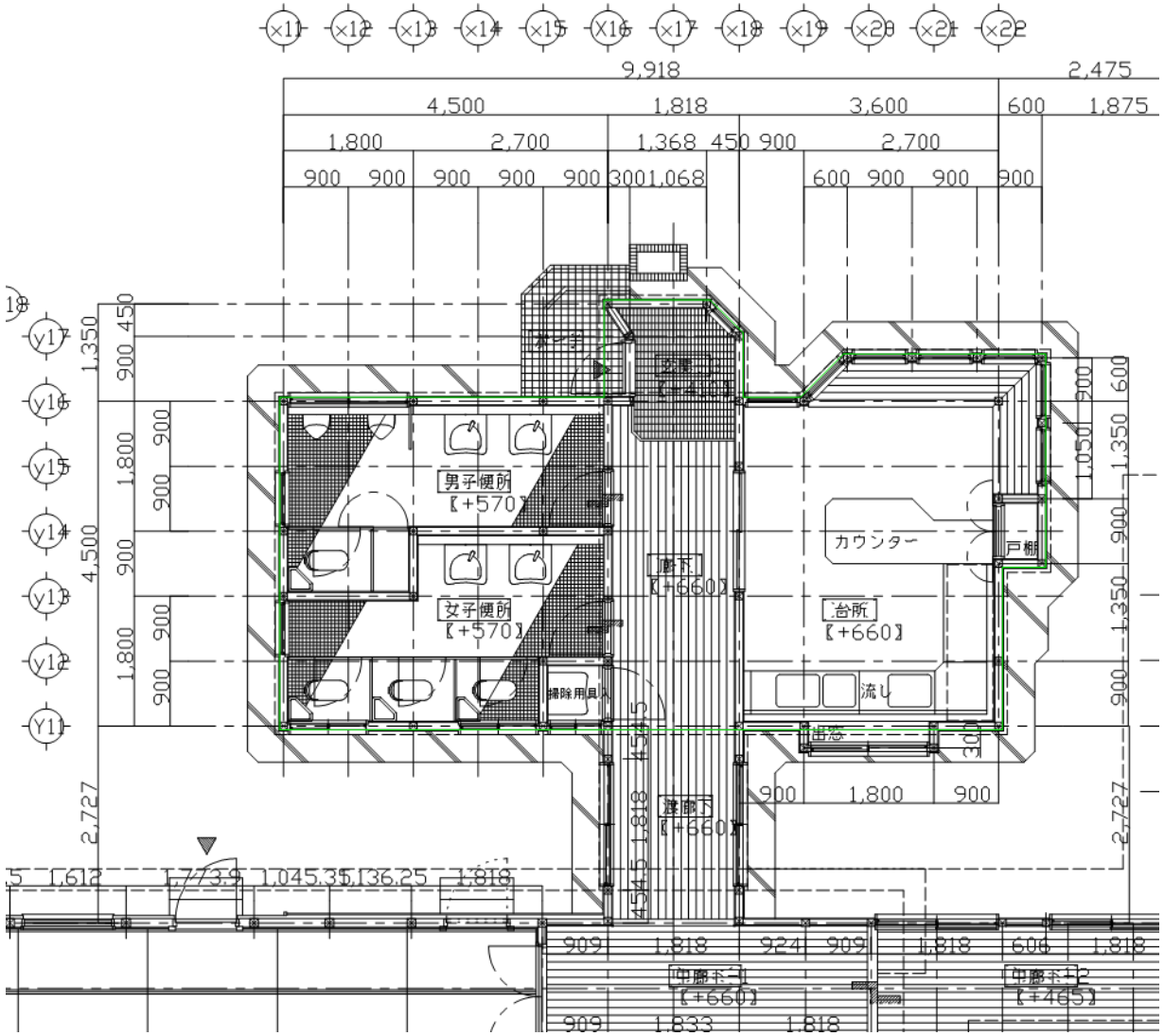
②外観写真

③座敷部分

青山水源事務所旧館（台所棟）詳細

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

①平面図



②外観写真

③室内写真

旧富岡倉庫地区（野積場）の跡地利用について

横浜市政策局基地対策課

2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

1　地区概要

野積場

所在地：金沢区富岡東二丁目
※最寄り駅：金沢シーサイドライン「南部市場駅」より徒歩１分

所有者：国(財務省)

面　積：約 2.2 ha

都市計画制限：第１種住居地域
第４種高度地区

【航空写真】

2　主な経緯

◆平成21年５月：返還

◆平成23年７月：跡地利用基本計画策定

「産業・研究機能の導入」に向けて検討を推進

◆平成26年12月：横浜市衛生研究所が開所

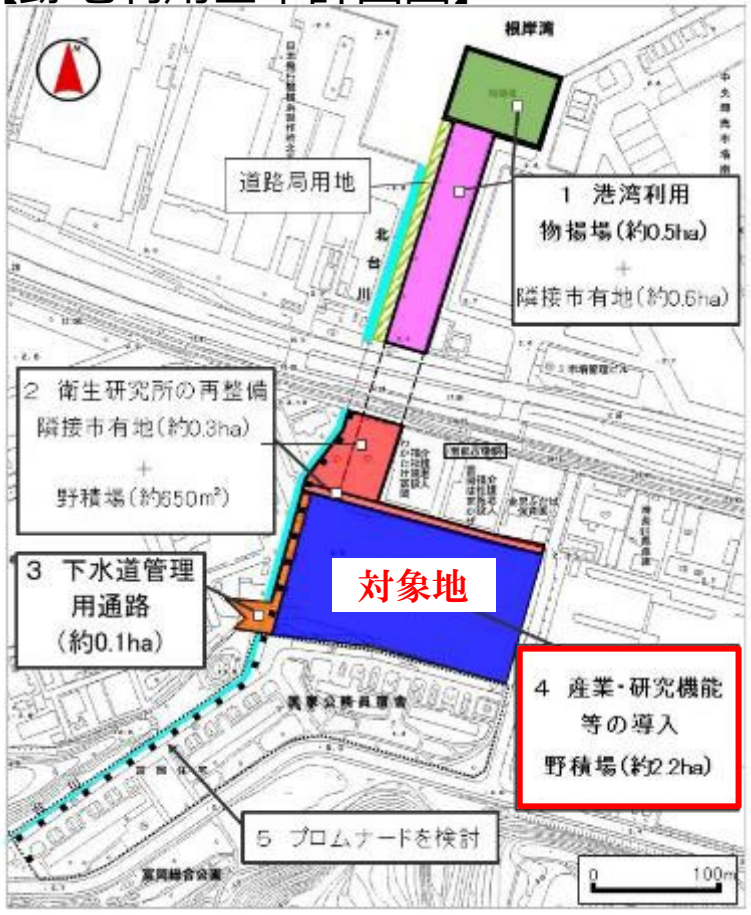
◆令和４年度：サウンディング調査実施

活用内容や事業手法等、幅広くアイデアを聴取

◆令和５年度：サウンディング調査（２回目）実施予定

実現可能性の視点から誘導すべき用途の確定を目指す

【跡地利用基本計画図】



３　令和４年度　サウンディング調査結果

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

提案された主な用途(団体数)

◆物流施設（５団体）：住宅地向け配送など、小口配送に限定した物流施設の立地　など

◆産業研究施設（２団体）：賃貸型研究開発施設の立地　など

◆住宅（７団体）　（内訳）
- 実証実験機能付き住宅（１団体）
- シニア向けマンション＋戸建住宅（１団体）
- 分譲マンション（４団体）
- 旧国家公務員宿舎のリノベーション（１団体）

※その他、データセンター（２団体）、高級有料老人ホーム（1団体）など

４　令和５年度　サウンディング調査（２回目）

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

目的

１回目の調査結果内容を踏まえ、当該地の本格活用に向けて、誘導すべき用途確定を目的に、再度対話を実施します。

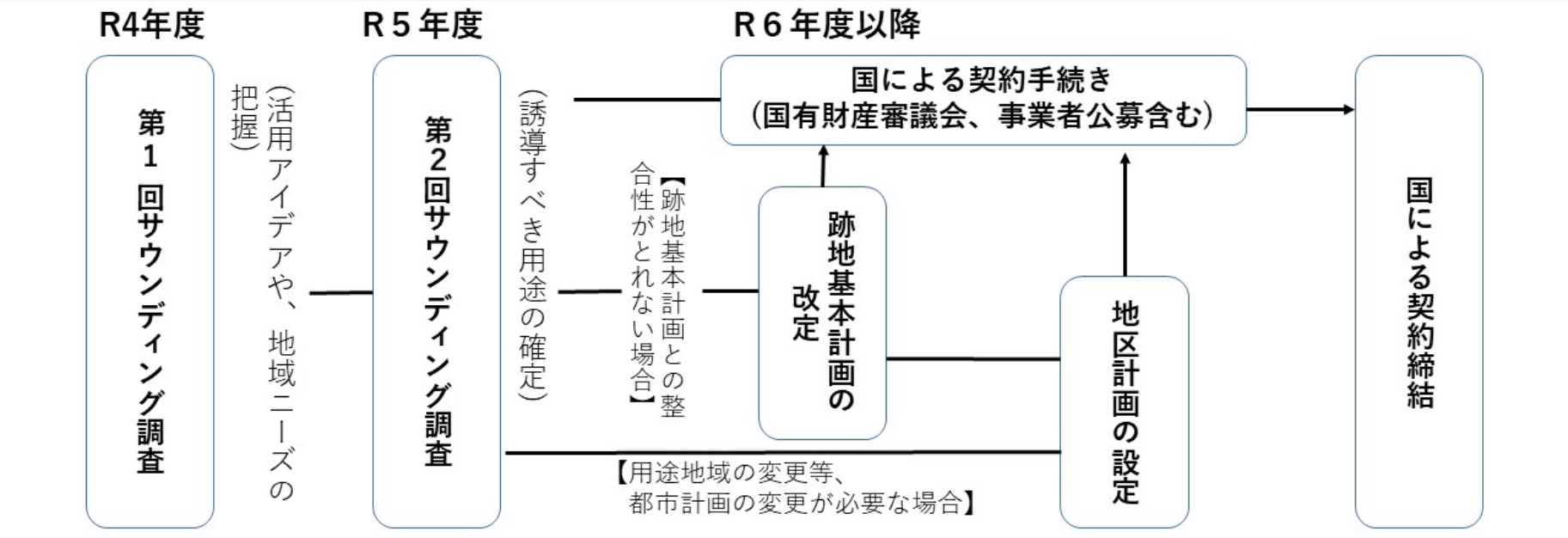
対象者

「旧富岡倉庫地区　野積場」の活用事業に関心があり、事業の実施主体等となる意向を有する法人又は、法人グループ。
また、必要に応じて隣接地「旧国家公務員宿舎」との一体利用等の活用事業も含める。

※１回目の対話の参加の有無は問いません。
※前提条件、ご提案いただきたい内容を設けます。

ご案内(公表について)：本市HPに掲載（7月上旬頃を予定）

5　今後の想定スケジュール



◆今年度のサウンディング調査結果を踏まえ、関係区局との議論を行いながら、地域の課題解決に資する跡地利用を検討し、誘導すべき用途を確定

◆必要に応じて、跡地利用基本計画の変更や、地区計画の策定等を実施

◆国との契約手続き(国有財産審議会、事業者公募等)を行う

旧第一銀行横浜支店の活用

にぎわいスポーツ文化局創造都市推進課

2023年６月26日　令和５年度第１回セミナー

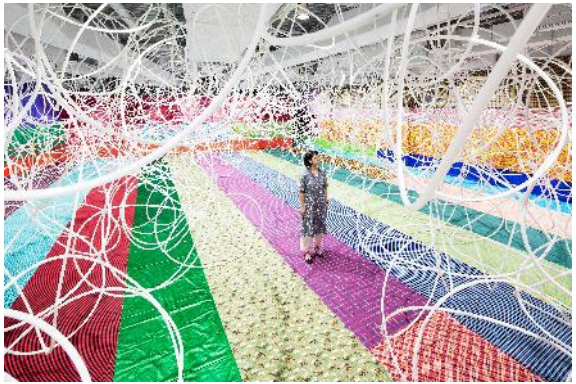
明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

1 本事業の背景･概要

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

「文化芸術創造都市（クリエイティブシティ・ヨコハマ）」

「文化芸術創造都市－クリエイティブシティ・ヨコハマの形成に向けた提言（2004年）」より抜粋



▲「YCC Temporary 鬼頭健吾」展（2017）
Photo:Shinya Kigure

▲「ミナトノアート2022」

▲旧第一銀行横浜支店

1　本事業の背景･概要

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

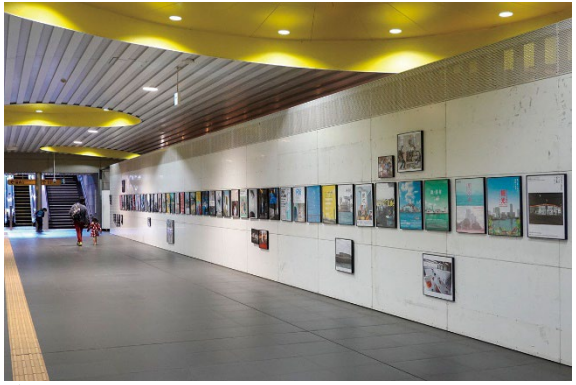
「創造界隈の形成」

▲急な坂スタジオ（旧老松会館）

▲象の鼻テラス

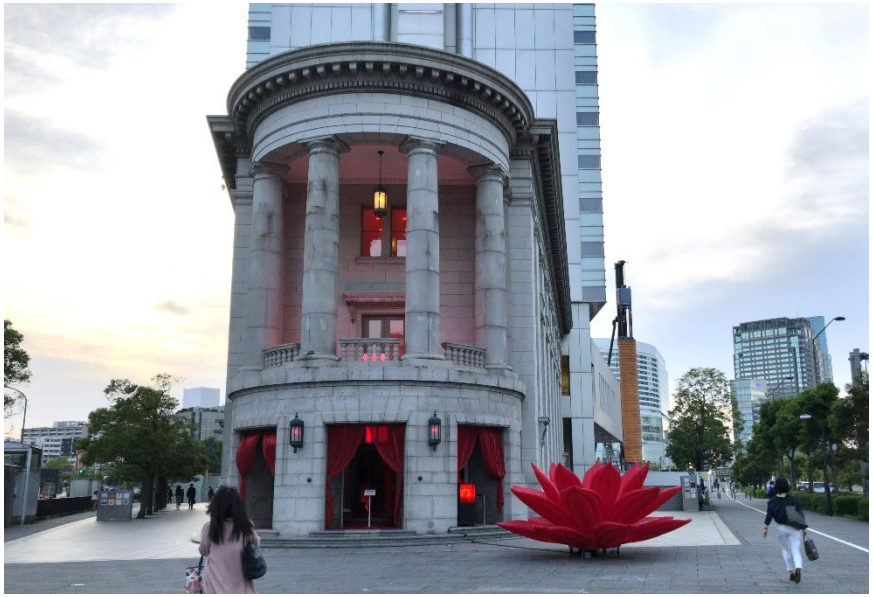
▲初黄・日ノ出町地区

▲THE BAYS（旧関東財務局）


▲BankART Station

▲BankART KAIKO

「旧第一銀行横浜支店」



▲「RED ROOM」（2018）
<YCC ヨコハマ創造都市センター>

▲１階ホールでのカフェ運営（2015～2020）
<YCC ヨコハマ創造都市センター>

1 本事業の背景･概要

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

昭和４（1929）年	第一銀行横浜支店として創建
昭和55（1980）年	横浜銀行本店別館として使用開始
平成15（2003）年	・移築復元一部曳家 ・横浜市認定歴史的建造物に認定
平成16（2004）年	NPO法人BankART1929が「BankART1929 Yokohama」として運営開始
平成21（2009）年	（公財）横浜市芸術文化振興財団が「ヨコハマ創造都市センター」として運営開始
平成27（2015）年	NPO法人YCCが「YCCヨコハマ創造都市センター」として運営開始
令和２（2020）年	NPO法人BankART1929が「ヨコハマ創造都市センターBankART Temporary」として運営
令和３（2021）年	天井脱落対策工事に伴い休館
令和４（2022）年	運営事業者の公募を実施するも、選考者なし
令和５（2023）年	再公募に向け検討中

2 旧第一銀行横浜支店 土地の概要

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

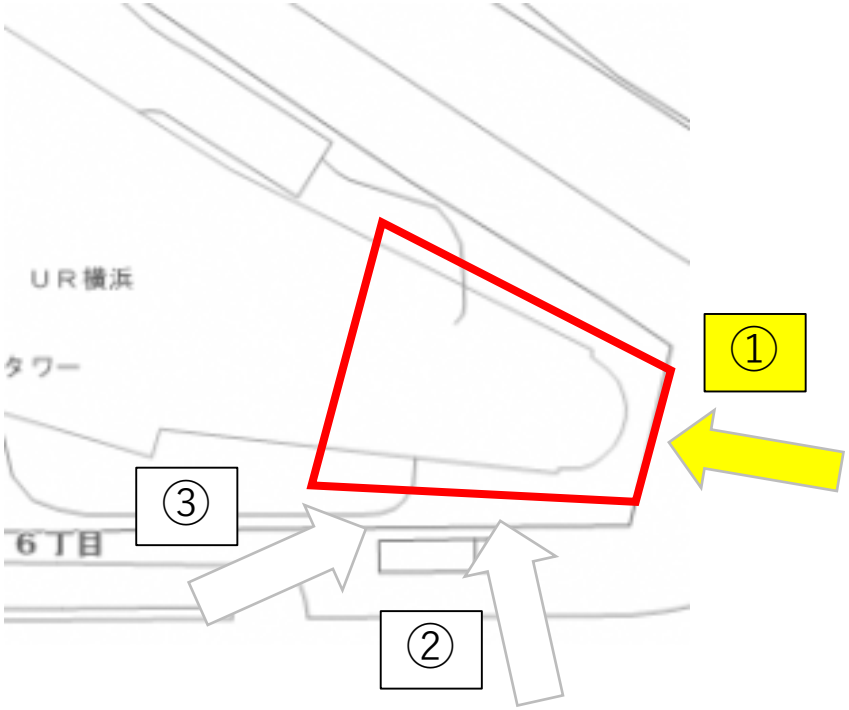
所在	中区本町６丁目５０－１	地目・地積	宅地・400.59㎡
用途地域	商業地域	防火地域・風致地区指定	防火地域 風致地区指定なし
現況	建物有 名　称　　旧第一銀行横浜支店 建築年　　平成15（2003）年 延床面積　1934.36㎡		
地区計画等の有無	有（北仲通南地区再開発地区計画）		
その他特記事項	地域まちづくりの計画等 景観計画　　：関内地区北仲通り南特定地区 都市景観協議地区　：関内地区北仲通り南特定地区		

3 旧第一銀行横浜支店 建物等の概要

施設の名称	旧第一銀行横浜支店	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
規模	延床面積：1,934.36㎡ ３Ｆ　：　556.69㎡ ２Ｆ　：　239.52㎡ １Ｆ　：　713.68㎡ Ｂ１Ｆ　：　403.07㎡ Ｂ２Ｆ　：　21.40㎡	建築年	平成15（2003）年
その他	・横浜市認定歴史的建造物 ・旧第一銀行横浜支店は、横浜アイランドタワーの低層部であり、横浜市が区分所有 ・B1F及び１Fはみなとみらい線馬車道駅直結		

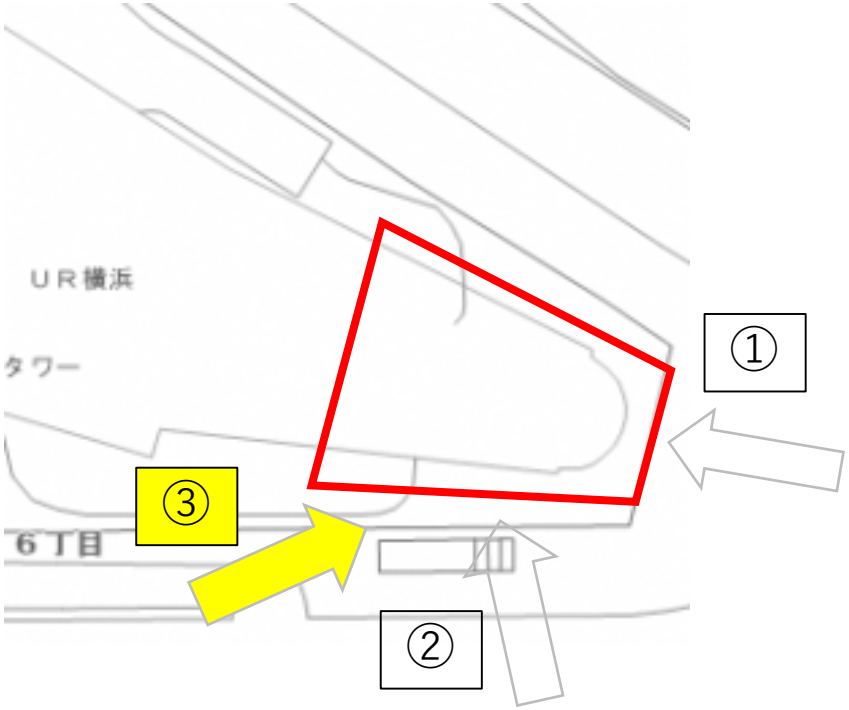
4　旧第一銀行横浜支店　案内図

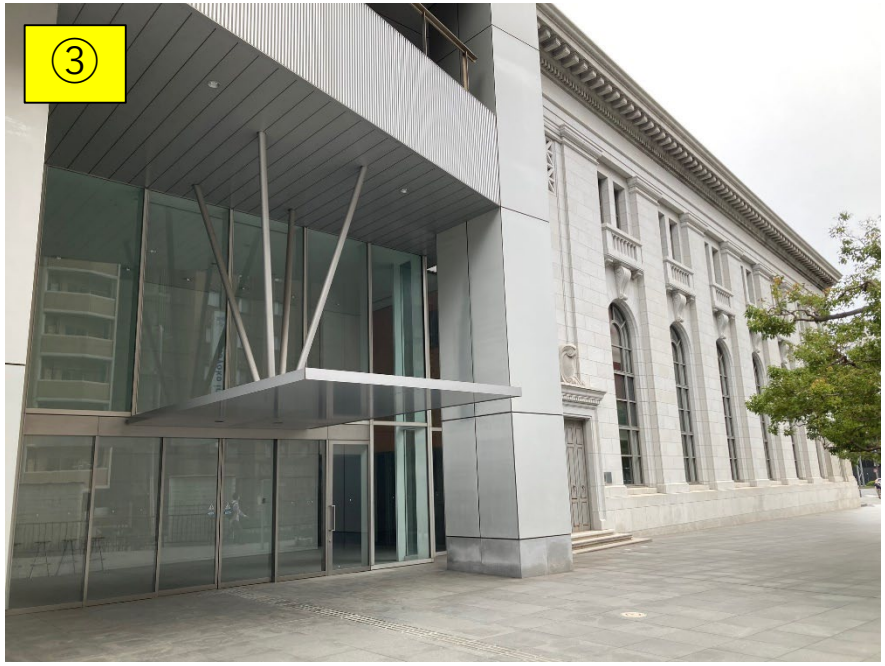
5　旧第一銀行横浜支店　外観写真



5　旧第一銀行横浜支店　外観写真

5　旧第一銀行横浜支店　外観写真



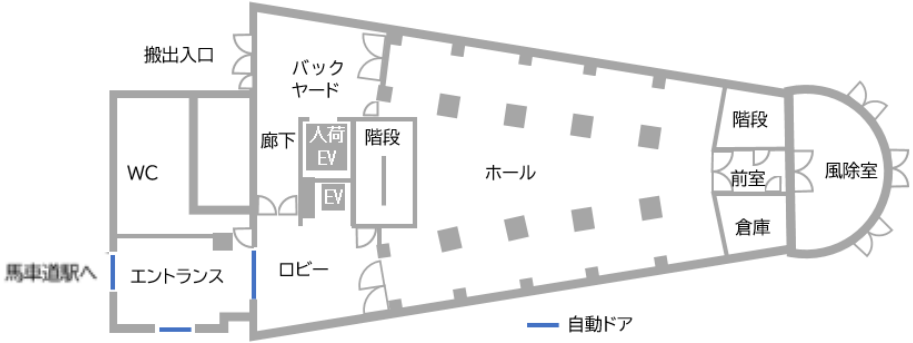


6 旧第一銀行横浜支店 フロア図

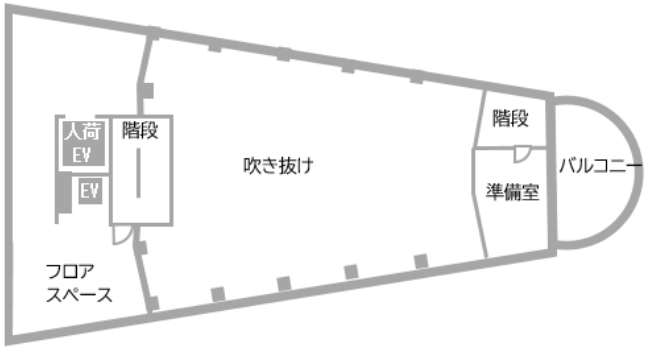
明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

地下１階

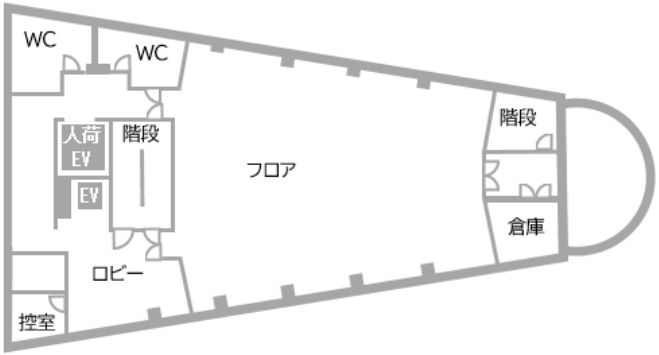
１階



２階



３階



7　旧第一銀行横浜支店　内観写真

1 階

▲ホール

▲風除室

▲ロビー

7　旧第一銀行横浜支店　内観写真

2 階

▲バルコニー

▲準備室

▲フロアスペース

7 旧第一銀行横浜支店 内観写真

3 階

▲フロア

▲ロビー

7　旧第一銀行横浜支店　内観写真

地下１階

▲小ホール

▲ロビー

7　旧第一銀行横浜支店　内観写真

その他

▲２階踊場

▲エントランス

8 前回公募（令和4年度）の条件

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

前回公募	
募集期間	令和４年３月29日～６月10日
主な活用内容	・歴史的建造物の特徴を生かした創造的な活用 ・アーティスト等の創造的活動の場 ・市民等の創造的な体験 ・企業や地域との連携、エリアの賑わい創出 ※ 必須機能 ・アーティストやクリエイター、アート、クリエイティブにかかる関係者、来館者など、だれもが無料で利用できる創造都市のコンシェルジュ的な機能 ・創造界隈６拠点や、市内のアート・クリエイティブ活動をつなぐコミュニティハブ機能
建物改修の条件	・横浜市認定歴史的建造物保全活用計画を遵守 ・建物の躯体に影響を及ぼすような大幅な改修で、原状復帰が相当困難なものは不可
貸付料・固定費	＜月額支払貸付料＞ 2,060,093円（別途消費税及び地方消費税） ＜参考－令和元年度の実績＞ 水光熱費：年額約1,400万円　設備維持管理費：年額約730万円
貸付期間	15年間

9 第二部 グループ対話でお聞きしたいこと

① 活用のアイディア

- 周辺環境・立地を踏まえた施設活用の可能性、どのような業種・業態の事業が考えられるか
- 歴史的建造物としての特性を生かした活用のアイディア

② 公募条件について

- 本施設の事業採算性についてどのように考えるか
- 参画にあたって、課題となる部分はあるか

様々な視点から、幅広いご意見をお聞かせください

10 今後のスケジュール(案)

11月頃	・グループ対話・ヒアリング等を踏まえた、庁内外での活用方向性検討 ・公募に向けての諸条件整理
年度内	・公募要項の公表 ・見学会の実施
6年夏頃	・附属機関による審査・選考 ・運営事業者の決定
6年秋以降	・賃貸借契約の締結 ・運営開始

ご清聴ありがとうございました

にぎわいスポーツ文化局創造都市推進課

YOKOHAMA PPP PLATFORM

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER